

ほぼ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどつした事でしょっ?」)

道路使用許可申請書

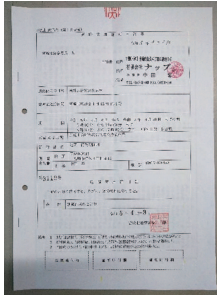
屋外看板の施工時に公共道路を使用することがあります。このようなときには使用する道路によって管轄の警察署や河川国道事務所、土木事務所へ出向き道路使用許可を申請します。今回はこの手順についてご説明します。

まず最低でも施工三日前には申請書を提出し

ます。提出書類は写真の「様式第六の許可申請書」+施工場所詳細地図+保安対策平面図+現場施工予定の写真などが重要です。保安対策平面図には歩道や車道の詳細な寸法と作業時の誘導員や緊急時の対応策、夜間時の対策などを明記します。また、警察署には手数料として一回の申請に二千四百円の証紙を申請書に貼り付けます。一番の肝は?それは、安全対策です。トラックや高所作業車などはカラーコーンで囲い誘導員を



▲高所作業車・ゴンドラより



▲申請書類

配置したイメージ図を記載し、歩道を使用するときは7時から八時半は作業を止めて通勤や通学の方々が安全に通行できるように配慮します。写真は今年三月宮崎駅前での高所作業車による安全対策の現場写真です。どのような職種でも安全対策は一番大事な仕事になっていますね!

ジムと私

カリーング五輪日本代表 藤澤五月選手の筋肉美見られましたか?ビックリしましたね!さて、皆さんは、ジム通っていますか?私はダイエットとストレス解消に通っていたのですが、この度ジムを移籍することにしました。一番の理由は、家近くにジムが出来たからです。

私が今まで通っていたジムは、朝十時~夜十一時までオープン金曜休館のジムでした。日曜祝日は朝十時から夜七時まで。世間では、初心者向けのジムだそう。ダンベルも最高二十四キロまでしかありません。でも、プールもあるしスタジオもあるし、大浴場もあったので満足はしておりました。しかし、少し嫌な事もありました。初心者向けだけに、憩いの場になっていくんです。マシンのそばでも井戸端会議。私はジムに行くまでは『よだきがり』なんです。いざジムに入ると年齢を忘れて黙々とやりすぎてしまうタイプです。なので、アドレナリン出まくってるときにマシンのそばで会話されると

キーツ(怒)となっていたのです。

しかし!移籍した新しいジムにはプールもスタジオも大浴場もありませんが、バーベルの重量と会員の顔ぶれが明らかに違います。ダンベルは最高五十キロまであります。私が触ることはないでしょうが。宮崎にもこんな人が

たくさんいるので、自分と戦っているのです。男性はタンクトップだらけ&女性も身体のラインみせまくりのパツパツウェアです。見えないマウンツの取り合いが繰り広げられるというのが正解でしょうか。今度のジムは年中無休・二十四時間営業なので、夜十時から一時間、週末金曜は時間を気にせず通っております。夜は男女問わず、私みたいな体型の方が多いです。マウンツもないし人も少ないので、自由に鍛えております。家から近いので、歩いていけるのは助かります。

未だに体型に変化はないですが、一年中通えるというプレッシャーはあります。若いころの自分の体型をもう一度取り戻すべく頑張ります。タンクトップ姿で昼に通えるぐらいにはもっていきたいが今の目標です。目指せ、腹筋GLDK(笑)。(光)

思い出の味

大阪編

「美味しい天ぷら食べに行こうよ!」と、深夜に突然私の部屋に訪れた一ツ年上の寮の先輩。「いやいや、もう夜遅いですよ?」と素直に返した自分ですが、大学時代は夜こそがゴールデンタイムで、夜な夜な映像制作に勤しんでおりました。二十歳になって念願のバイクを手に入れ、二人乗り解禁になった頃合いを見ての「僕を連れてって!」のお願いだった気がします。青春の味のひとつの出会いはそのような感じでした。

今年五月。その天婦羅屋のひとつに、妻とお邪魔しました。物価高騰などで昔ほどの「盛り・お得感」はないものの、しめじを半株ほどの塊で揚げたものや、大阪名物?な紅ショウガの天婦羅など懐かしい味を頂いてきました。味の記憶から、二十年前の自分を思い出させてもらいつつ、同じ寮に住んでいた先輩はテレビで専門家で登場したり、後輩は漫才で優勝して有名になっていたり色々思い出して、私は私で頑張らないと!

お店の場所は、大阪は堺の漁港市場。今でもたまにテレビで紹介される、天婦羅屋が数軒を連ねる一角。元々は市場に来る漁師さんのために、夜からオープンして朝まで営業する感じでした。オスメの天婦羅盛り合わせもあります。が、どちらかというと一品ずつ食べたいネタをメモ書きしてお店の方に渡して揚げてもらおうスタイル。また、味噌汁を頼むと、てんこ盛りのアサリが乗ったアサリ汁で提供され、食べた後の貝殻は床に捨てるという独特のルールが珍しいことであって、テレビで取り上げられている様です。一時期テレビドラマにもなっていた、「深夜食堂」の様な世界。友達・仲間同士、カップルや夜の仕事明け・同



(紀)

いんちきクライマーが行く！

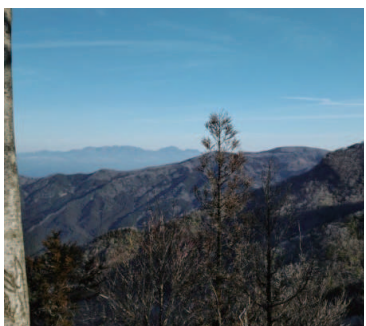
「三尖、黒岳、親父山周回」編



祖母山系を歩きに行きました。高千穂町の上野地区、四季見原キャンプ場の看板を目印に細い道へとハンドルを切る。愛車ジムニーはぐんぐんと標高を上げて、1100mへ。朝7時。「しきみばし」の脇にある駐車スペースは、まだ一台も停まってません。ここがまさに親父山の登山口。橋を歩いてわたり50mほど先へすすむと、「三尖（みつとぎり）」の登山口。本日は、ここから、みつとぎり、黒岳、親父山を歩きます。祖母山を左に見ながら、大きく半円形に歩いていくコースです。はじめての路を歩く、不安と緊張とワクワク感。おかげさまで天気は快晴。

まずは急登からはじまります。ひたすらの真つすぐな一本道。まっすぐ空へと伸びています。ようやく一つのピークを超えると、すぐに下り。そしてまた次のピークへと。なるほど三つの尖がりがあるって「みつとぎり」だ。やっと三つ目のピークを踏むと、小さな頂上標識に「三尖（1474m）」。連なる稜線の先には、黒岳、親父山が鎮座しています。黒岳への縦走路のアップダウンの途中、景色が開けると目にとびこんできたのは、くじゅう連山。朝の澄んだ空気と青空のおかげでそれはもう美しい景色。連山の山肌の印影までもがくつきり。スマホのカメラで、これは切り取れない。いつまでも飽きずに見つめていましたが、長居できない吹きつさらしの稜線上。先にいこうと、ひよいと左側を向くとこれまた美しい阿蘇の山々。根子岳の荒々しい凹凸までもくつきり。手前の黒岳の稜線の向こうは、この山系の盟主の祖母山の雄大な姿。絶好のビューポイントに、もう、ここで引き返してもいいかなというくらい。とはいえないままでもいるわけにもいかず、先へと進みます。

黒岳には前峰があり、歩いていくと山頂に見えてしまいます。フェイクです。ここを登れば…と気を吐いて上がっていくと、そこじゃあない。まだ向こうだ…とほほ。強風に振られながらも、ようやく黒岳山頂へ着きました。晴れ



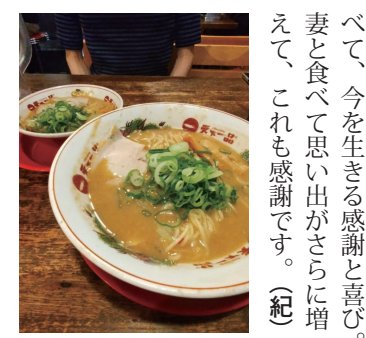
渡った空でしたが、南に大きな雲のかたまりが見え、もうじきここいらも雲の中には入りそう。先をいそがねば。難所をすぎれば、地味な登りの路が続きます。親父山の山頂が近づいてくると、残雪が深くなってきており、歩きにくい事この上なし。もうすっかり青空はかくれて、雲の中。あたりは白い世界で、寒さがこたえます。ふくらはぎの悲鳴がギリで、ようやく親父山の山頂へ。これで周回は完了です。あとはスタート地点の登山口へと戻るだけ。下りの路は、親父山登山口へと降りていくルート。こちらも初見の道ですが、ビュンビュンと飛ばして最短で一気にかけており、あつというまに林道へ。ここをしばらく歩くと、車を置いた場所へと出てきました。誰にも会うこともなく、みつとぎり、黒岳、親父山をひとりじめの一日でした。アケボノツツジとシヤクナゲの時期は、すばらしいコースだろうな。おすすめですよ。(賢)

思い出の味

（京都編）

ラーメンが国民食、日本食の様に世界にも広まり、知人・友人・取引先様との会話でも「ラーメン何味が好き？」と話ネタ・自己紹介ネタにもなり得る程。私の場合、好きなラーメンを聞かれたら、「天下一品のこつてり」です。大学時代、天下一品以外のラーメンはほとんど口にしていた記憶が無いほど、食べまくってました。リサイクル屋のバイトで、買取や配達等の出先で食べるラーメン以外は、普段は自炊かタイムセールの総菜で過ごしていたので、大学の学食よりも多く食べた外食だったと思います。というのも、当時よく通っていた店舗では、ラーメン半額キャンペーンがよく開催されていて、昼夕・夜食で一日三食&キャンペーン期間中は毎日位食べまくっておりました。半額だから・・・と、一回の訪問で二人前頼んだり。その期間中の血液検査なら、とんでもなく恐ろしい結果が出ていたことでしょう。

残念ながら、宮崎には出店されていない天下一品。一番近いのはおそらく鹿児島・隼人店。わざわざ行って食べることは無いのですが、県外出張などで立ち寄りそうな店舗は調べて実食。ちなみに、昔は店舗ごとに少し味が違いました。その地域に合わせているのかもしれない。あと、センターキッチンで作られたスープを継ぎ足しているらしいので、「時間帯」でアツサリ気味だったり。よく通っていたころは、あえて！あのドロリとしたスープをさらに濃厚に味わいたいため、濃い時間帯を狙って食べに行ったりもありませんでした。今年の五月、京都の元祖・総本店に妻とお邪魔してきました。相変わらずの行列。味は濃すぎず薄すぎずのスタンダード。全店のお手本の仕上がり。外で並んで待つ間に、地元の高校生数人と先生が並んでいて会話が聞こえて来ます。彼らにとつての「青春の味」になっていくのだろうと思います。頑張っているとき、楽しいとき、辛いときも食べたあの味。フランチャイズのお店が思い出の味だ、出先・旅先でも食べられることが嬉しいです。時を経て食べて、今を生きる感謝と喜び。妻と食べて思い出がさらに増えて、これも感謝です。(紀)



編集後記

「四十にして惑わず」かの論語の言葉ですが、少し前に四十一歳になって思うのは「いやいや、未熟者」という気持ち。また、「大人気ない」や「大人の対応」と言われるところの、大人とは？という疑問もあります。せっかくなので、ビジネス上の大人について書き出してみました。

- ① 観察力（正面・裏面）
 - ② 直感力（引出し・経験）
 - ③ 分析力（仮説・課題）
 - ④ 集中力（切替・調節）
 - ⑤ 想像力（配慮）
 - ⑥ 判断力（タイミング）
 - ⑦ 実行力（リスク・計画）
 - ⑧ 変換力（言い方・例え）
 - ⑨ 回復力（心身調律）
 - ⑩ 俯瞰力（状況認識）
- 私なりに思う、ビジネスパーソン・十の要素で、最近妻とも仕事や人生においての在り方を相談する中で触れています。この十項目は手帳の裏に書いており、毎日眺めつつ、仕事や生活の中で少しずつ高められたらと、楽しみながら励みます。(紀)